

# 1 Introduction

GMAT (Graduate Management Admission Test) は、世界中の多くのビジネススクールなどの受験の際に必要な標準テストです。テストは 4 分野からなっています。

## 1. Verbal Reasoning

読解力、論理的思考力を試すための問題で、5 肢択一式です。Sentence Correction、Critical Reasoning、Reading Comprehension の 3 つの形式に分けられます。

## 2. Quantitative Reasoning

基礎的な数的処理能力を試すための問題で、5 肢択一式です。Problem Solving、Data Sufficiency の 2 つの形式に分けられます。

## 3. Integrated Reasoning

表やグラフから、データを読み取る能力を試すための様々な形式の選択問題が出題されます。Multi-Source Reasoning、Table Analysis、Graphics Interpretation、Two-Part Analysis の 4 つの形式に分けられます。

## 4. Analytical Writing Assessment

ビジネススクールなどでのレポート作成等に必要となる、論理的な文章を書く能力が問われます。選択問題ではなく、実際にエッセイを書くことが要求されます。

各分野の時間、問題数、配点は下記のとおりです。

科目	問題数	時間	スコアの範囲	スコアの単位
Verbal Reasoning	36	65 分	6～51	1
Quantitative Reasoning	31	62 分	6～51	1
Integrated Reasoning	12	30 分	1～8	1
Analytical Writing Assessment	1	30 分	0～6	0.5
Total (Quantitative + Verbal)			200～800	10

一般的にビジネススクールが重視するのは、Verbal Reasoning のスコアと Quantitative Reasoning のスコア、そして 2 つのスコアの合算によって得られる Total Score です。

Verbal Reasoning と Quantitative Reasoning の選択問題の特徴は、解答者の正解・不正解の状況に応じて問題の難易度が変わる Computer-Adaptive Test であるという点です。まずは中級程度の問題が出題され、解答者が正解すると次に難しめの問題が、不正解だと次に易しめの問題が出題されることになります。ただし、次の問題が易しくなったからと言って、前の問題が不正解だったとは限りません。それまでの問題の正解率の状況や問題の分野やレベルなど、総合的な判断に基づいて出題されることになります。

最終的なスコアは、問題の正解数（および解答数）と問題の難易度に基づいて判断されます。解答数も考慮されるため、未解答の問題があると最終的なスコアが低くなってしまうので、全ての問題が解けるような時間配分が大切です。

## 問題の取り組み方（概要）

### 1. 時間配分に気をつける

GMAT は、どのセクションも解答時間に余裕がないので、時間配分が重要です。特に、Verbal Reasoning と Quantitative Reasoning は、一問あたり平均 2 分程度と余裕がないため、一つの問題にこだわりすぎずに解く必要があります。問題形式に得意・不得意がある場合、得意な形式の問題に時間をかけて、不得意な形式の問題は消去法などで正解の可能性を高めた上で、時間をかけずに選択肢を選ぶのも一つの手です。

### 2. 選択肢を活用する

Verbal Reasoning、Quantitative Reasoning、Integrated Reasoning は選択問題なので、本文と同様に選択肢も活用しましょう。例えば、問題文からある程度解答内容を推測してから選択肢を選ぶと効率的に解ける場合が多いです。あまりに本文から外れてしまうような選択肢や、問われている内容と逆の選択肢などは、不正解の可能性が高いと言えます。

一方、問題文（あるいは本文）の読解が難しい場合には、選択肢がヒントになって内容が理解できることもあるので、選択肢を上手く活用することが重要です。